

令和6年度 沖縄県 英語教育改善プラン

コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育む「教員の英語指導力」の育成

目標

- 授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合（R5:96.2%⇒R6:97%⇒R7:98%⇒R8:99%⇒R9:100%）
- 「話すこと」を評価するためのパフォーマンステストを実施した学校の割合（R5:97.2%⇒R6:98%⇒R7:99%⇒R8:100%⇒R9:100%）
- 英語の授業において、「児童が1人1台端末を活用した授業」を実施した学校の割合（R5:95.7%⇒R6:97%⇒R7:98%⇒R8:99%⇒R9:100%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業における児童の言語活動時間の割合が増加した。

※75%以上の時間

R4:53.4%→R5:57.9%

※50%以上75%未満の時間

R4:37.6%→R5:38.3%

※50%以上の時間（R5）

本県96.2%／全国94.4%

②「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」を評価する、パフォーマンスの状況の「実施あり」の割合が増加した。

※R4:94.2%→R5:97.2%

未だ改善が必要な点

①学習到達目標の整備状況は改善が見られるが、全学校で整備されている状況ではない。

	R4	R5
設定	55.9%	66.9%
公表	34.4%	41.7%
把握	48.0%	57.1%

2. 要因分析

①②令和元年度から令和5年度にかけて小学校スキルアップ研修会（対象：小学校全教諭悉皆）を実施したことで、学習指導要領の着実な実施に向けた言語活動の捉えやその具体についての理解が進んだと考えられる。また、授業参観やワークショップを実施したことで、学習展開や評価方法等の具体を事例をもとに共有することができたからだと考えられる。主な研修内容は、公開授業参観、指導主事による学習指導及び評価に関する解説、英語専科指導教員によるワークショップである。

①上記研修会や小学校英語専科指導教員の実践を通して、作成や活用に係る周知を行ったこともあり改善傾向ではあるが、学校間の差が見られる。また、外国語教育担当者の理解等は進むが、担当が変わると活用状況も変わり、校内での共有が不十分だと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

□目標①②③を達成するための下記2事業の実施

- 小学校英語ステップアップ研修会
 - ・各教育事務所にて年間2回実施
 - ・対象：全小学校外国語活動及び外国語担当者（各校1名）
 - ・内容：公開授業及び協議
- 小学校英語専科指導教員連絡協議会
 - ・義務教育課にて年間3回実施
 - ・対象：英語専科指導教員（37名）
 - ・内容：公開授業及び協議

【概要】

公開授業のテーマを下記4つとし、本県小学校外国語活動及び外国語の目指す授業像の共有を図る。また、一律のテーマで協議を行うのではなく、参加者から事前に集約した日頃の授業づくりや実践における疑問や困り感等の解決に向けた協議を行う。
 [視点]①授業中、75%以上の時間、言語活動を行う ②「話すこと」を評価するためのパフォーマンステストを行う ③1人1台端末やデジタル教科書等を活用する ④CAN-DOリストの活用場面を設定する

■義務教育課ポータルサイトによる情報提供

①引き続き、「沖縄県版CAN-DOリスト」を掲載し、各学校へ作成目的の周知、作成及び活用の支援を行う。

※一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組

→教員採用試験における加点措置の実施（中学校又は高等学校英語教諭普通免許、英検準1級以上、TOEFL iBT72点以上、TOEIC Listening Test 785以上のいずれか）。

令和6年度 沖縄県 英語教育改善プラン

言語活動の充実による生徒の英語力及び英語担当教員の指導力の向上

目標

- CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合 (R5: 40.3% ⇒ R6: 43% ⇒ R7: 45% ⇒ R8: 48% ⇒ R9: 50%)
- 授業中における50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合 (R5: 67.5% ⇒ R6: 75% ⇒ R7: 78% ⇒ R8: 80% ⇒ R9: 85%)

1. 目標に対する現状

①学習到達目標の整備状況

	設定	公表	達成状況 の把握
本県	99.3	82.1	77.1
昨年度比	+9.4	+27.4	+15.2
全国平均比	+3.2	+10.5	-3.6

②CEFR B2レベル相当の英語力を有する英語担当教員の割合
R4: 58.5% ⇒ R5: 66.6%

① CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合は若干上昇したが、国の示す目標値には達していない。
R4: 38.6% ⇒ R5: 40.3%
また、全国学力・学習状況調査結果から、特に「話すこと」「書くこと」の領域において課題がある。

②授業における言語活動の割合が前年度から減少している。
R4: 69.7% ⇒ R5: 67.5%

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①CAN-DOリスト形式による学習到達目標を活用した授業づくりについての研究会等(授業力アップ研究会、STEP UP研修会)を実施したことで、改善したと考えられる。達成状況の把握については、引き続き改善を目指す。

②教員自身が英語に対する関心が高いこと及び教員採用試験での加点制度の効果が考えられる。

①②『言語活動を通して』資質・能力を育成するという指導』のイメージの共有が十分に図られていないことや、指導計画と評価計画が一体となって行われていないことが要因だと考えられる。

①②本県は、島嶼県であることから、研修機会の提供や日頃の授業実践に対する支援を充実させることが必要だと考える。

3. 目標を達成するための施策・事業

□目標①②を達成するための下記2事業の実施

○授業力アップ研究会 (年間2回実施)

対象：中学校英語担当者、小学校英語専科教師
内容：講話、公開授業、協議等

○STEP UP研修会 (年間2回実施)

対象：中学校英語担当者
内容：指導と評価の一体化を目指したテスト作成に係る
講話とワークショップ ～CAN-DOリストの活用と評価～

【概要】公開授業のテーマを下記の3つとし、『言語活動を通して』資質・能力を育成する指導の在り方』の共有を図る。

- ①授業中の言語活動の割合を75%以上とする。
- ②言語活動をより効果的に行うためにICTを活用する。
- ③CAN-DOリストの活用場面を設定する。

※各中学校は、「検証改善サイクルシート」を活用し、PDCAサイクルを確立する。

□①②義務教育課ポータルサイトでの情報提供
授業改善アドバイザーや授業力アップ研究会の公開授業の実践報告、その他好事例を掲載し、目指す授業像の共有を図る。

□①②小中高大連携研修会への参画

対象：小中高英語科担当教師 各校1名以上
内容：各校種における公開授業 (オンデマンド)

令和6年度 沖縄県 英語教育改善プラン

目標

指導と評価の一体化の促進を通じた生徒の英語力向上（CEFRA2レベル相当50%）及び国際性を身に付けたグローバルに活躍できる人材の育成

○CEFRA2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5: A2以上 40.3%、B1以上 12.1% ⇒R6: A2以上 50%、B1以上 20%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①授業における、生徒の英語による言語活動の割合が増加 (R4:59.6% →R5:60.5%)
- ②CEFRA2レベル相当以上を取得している生徒割合 (R4:15.1% →R5:18.4%)
- ③CEFRB2レベル相当以上の英語力を取得している教師の高い割合を維持 (R4:91.3%→R5:91.3%)

未だ改善が必要な点

- ①CEFRA2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒割合の減少 (R4:43.2% →R5:40.3%)
- ②CEFRB1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合の減少 (R4: 14.9% →R5:12.1%)
- ③授業における、英語担当教師の英語使用状況(発話50%を英語で行っている) (R4: 60.3% →R5:49.2%)

2. 要因分析

- ①指導と評価の一体化を図るため研修等で英語による言語活動を促進し、評価の改善を促した結果だと推察する。
- ②各学校において英語力向上のため資格検定取得を促した結果だと推察する。
- ③研修等を通して、英語担当教師の英語力が向上し、検定等に対する意欲も高まったと推察する。

- ①②課題に対応した授業改善が必要である。CEFRA2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒割合の見とり方について各学校で統一ができていないので、基準を示す必要がある。
- ③英語の授業を英語で行うという基本的な考え方が薄れていることが要因だと考える。研修等で、確認し、方法等を示唆する必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①教育課程説明会

令和5年度は、高校英語担当教員対象にオンラインで観点別評価、特に主体的に学習に取り組む態度の見とり方について協議を行った。また、各学校で実施している、パフォーマンステストの情報共有を行った。各学校の実践事例等をTeamsで共有するなど県全体への周知も行った。

②英語小中高大連携研修会

令和4年度は県内全ての小学校、中学校及び高校から1名以上の教員が参加するオンデマンド研修を実施した。異校種の授業観察や県内大学の英語教育専門人材の招へい等により、本県英語教育の課題の共有や対応策について理解を深めた。令和6年度も同様にオンデマンド型で実施する予定であるが、次年度以降、より充実した研修会にするためハイブリッド型を検討する。

③国際性に富む人材育成事業

- 国際性に富む人材育成留学事業（長期留学）
- グローバルリーダー育成海外短期研修事業
 - ・アメリカ高等教育体験研修（3週間）
 - ・専門高校生国外研修（2週間オーストラリア）
 - ・高校生海外雄飛プログラム（2週間ハワイ）
- アジア高校生オンライン国際交流事業

沖縄県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	40.3	50		50		55		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	12.1	20		20		20		20		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	60	60.5	65		65		70		70		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	70	65.9	70		70		80		80		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	81.7	100		100		100		100	
		公表(%)	70	42.3	70		70		70		70	
		達成状況の把握(%)	90	57.7	90		90		90		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	95	91.3	95		95		95		95		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75	49.2	75		75		75		75			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	45	40.3	43		45		48		50		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	75	67.5	75		78		80		85		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	87.9	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	99.3	100		100		100		100	
		公表(%)	65	82.1	85		85		85		85	
		達成状況の把握(%)	70	77.1	80		80		85		85	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	60	66.6	68		68		70		70		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	85	60.7	65		65		70		75			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	65	66.9	80		85		90		100
		公表(%)	50	41.7	50		55		60		65
		達成状況の把握(%)	50	57.1	60		65		70		75